

福岡県米麦大豆生育情報

平成31年 1月18日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	11月20日～1月16日 (58日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	8.4	12.7	4.6	189	78
前年差(比)	+2.4	+2.5	+2.6	117%	90%
平年差(比)	+1.0	+0.7	+1.2	89%	67%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月26日播種]

11月20日～1月16日の平均気温は平年より1.0℃高く、降水量は33%少なく、高温少雨で経過した。

出芽は、小麦で平年並～6日早く、大麦で平年より4～5日早かった。1月17日現在、小麦の生育は、草丈が平年より9～47%高く、茎数が農産部では11～28%多く、筑後分場では7%少ない。大麦の生育は、草丈が平年より30～42%高く、茎数が平年より35～57%多い。主稈葉数は、0.4～0.7葉多く、生育は平年より早い。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

ほ場の湿潤状態が続いており、排水対策が重要である。排水溝の溝さらえを行って排水口を整備し、地表水を排水する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝する。

(2) 踏圧・土入れ

踏圧・土入れは倒伏防止や雑草防除、排水対策のため必ず実施する。踏圧は土壌水分が低いときに、節間伸長開始期までに2～3回程度、土入れは3月上旬までに2～3回実施する。

(3) 雑草防除

雑草の発生量はやや多い。雑草の草種や発生状況を観察し、茎葉処理除草剤を適期に処理する。除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

1回目の追肥(分けつ肥)は、小麦・食料用大麦・裸麦では、基準量を1月下旬に施用する。ビール大麦は基準量を1月下旬～2月中旬に施用する。追肥に緩効性肥料を用いる場合も1月下旬に施用するが、施肥後に土入れを実施して確実に覆土を行う。

小麦・食料用大麦・裸麦の2回目追肥(穂肥)は3月上旬に施用する。

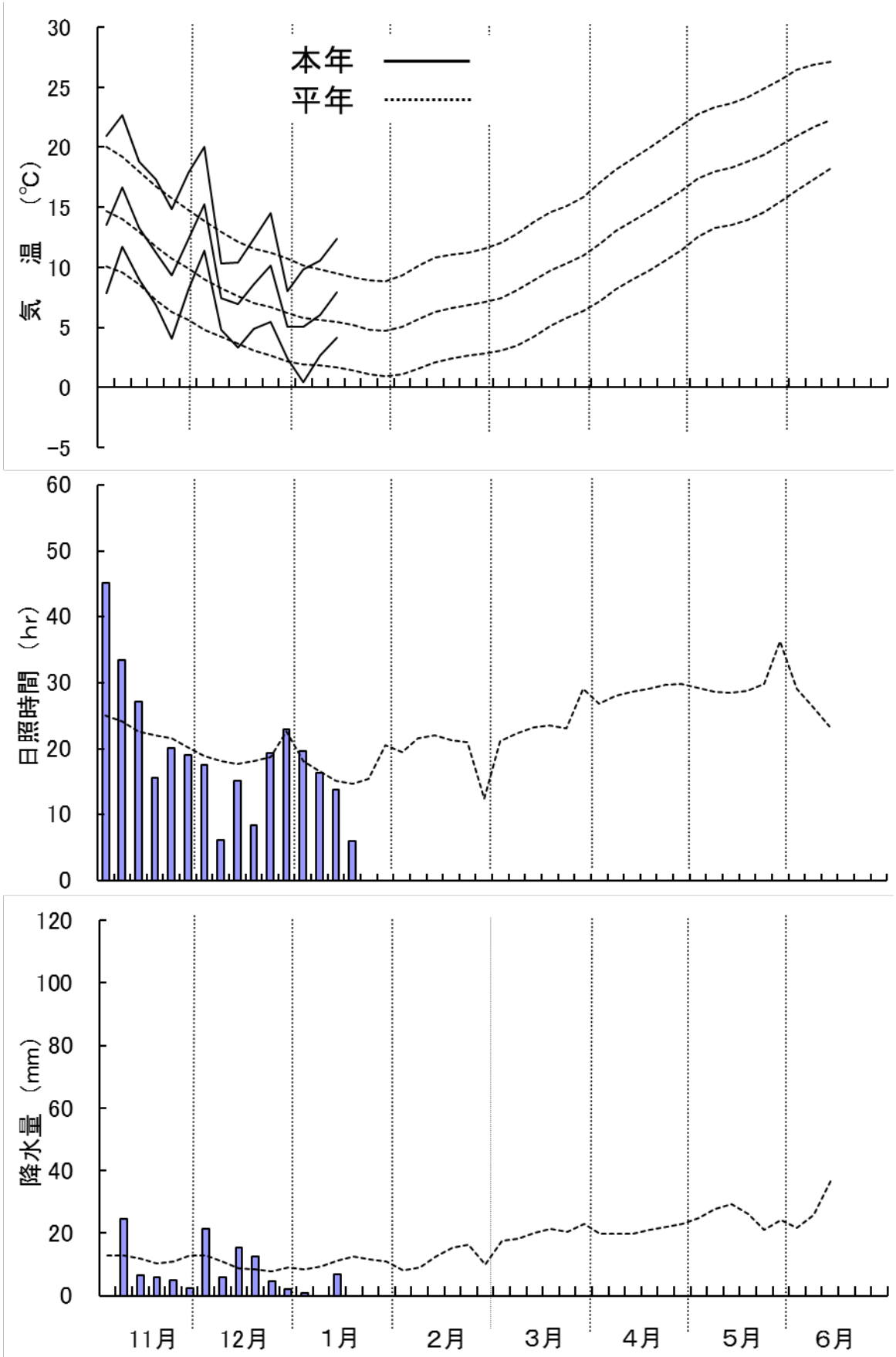
平成30年播 麦作況試験

(農林業総合試験場)

調査 場所	播種 期 月.日	品種名	年次	出芽期 月.日	1月17日		
					草丈 cm	茎数 本/m ²	葉数 L
農 産 部	11.20	チゴイヅミ	本年	11.26	17.2	548	4.4
			前年比(差)	-4	147	176	+1.2
			平年比(差)	-6	145	128	+0.5
	11.26	ほうしゅん	本年	12.3	12.1	605	4.3
			前年比(差)	-4	146	193	+1.3
			平年比(差)	-4	142	157	+0.7
11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	11.26	18.5	460	4.4	
		前年比(差)	-4	159	150	+1.1	
		前9年比(差)	-6	147	111	+0.4	
筑 後 分 場	11.20	シロガネムギ	本年	12.1	13.6	419	4.6
			前年比(差)	-2	140	96	+0.7
			平年比(差)	±0	109	93	+0.4
	11.26	はるしずく	本年	12.4	13.8	499	4.4
			前年比(差)	-10	164	229	+0.9
			平年比(差)	-5	130	135	+0.7
11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	12.1	17.8	390	4.6	
		前年比(差)	-2	145	101	+1.1	
		平年比(差)	-1	131	93	+0.4	

注1) 平年値はH20~29年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成30年11月～平成31年6月)